「男、突っ走る！」

最終回

第一稿

作・壽倉　雅

登場人物

木内	雅也	（25）	『オフィスツリーイン』代表
木内	孝志	（54）	雅也の父
木内	真保	（52）	雅也の母
木内	健次郎	（21）	雅也の弟
国枝	佐代子	（60）	『スリジェネ』総合プロデューサー
住吉	真由美	（43）	『スリジェネアカデミー』ダンス講師
谷岡	典江	（58）	『スリジェネアカデミー』演技講師
上島	譲治	（36）	『スリジェネアカデミー』演技講師
上島	理絵	（29）	『スリジェネアカデミー』演技講師
弘田	洸	（24）	『スリジェネアカデミー』歌唱講師
本村	晴臣	（55）	『スリジェネアカデミー』歌唱講師
加原	美穂子	（36）	『スリジェネ』会計担当兼メンバー
北	まひる	（23）	『スリジェネ』メンバー
加原	千世	（14）	『スリジェネ』メンバー
林	亜里沙	（13）	『スリジェネ』メンバー
赤澤	隆太	（12）	『スリジェネ』メンバー
辻松	翔	（12）	『スリジェネ』メンバー
石田	琴音	（11）	『スリジェネ』メンバー
林	香奈枝	（11）	『スリジェネ』メンバー
磯村	秀樹	（17）	『スリジェネ』メンバー
稲本	美香	（11）	『スリジェネ』メンバー
高橋	沙耶	（13）	『スリジェネ』メンバー
山中	敦夫	（45）	劇団主宰者
月島	藍那	（23）	元市民ミュージカル出演者
大森	泰明	（59）	元市民ミュージカル出演者

1　木内家・居間

雅也が鼻歌を歌いながら台所で昼食の支度をしている――玄関でドアの開閉音が聞こえ、真保が帰宅する。

真保「ただいま」

雅也「お帰り」

真保「どうしたの、鼻歌なんか歌っちゃって」

雅也「この間、あつぽんとゆきちゃんと久しぶりに飲んだでしょ。楽しくて楽しくて、まだ余韻が残ってるの」

真保「一年ぶりだったもんね、飲み会なんて」

雅也「会食が四人以下っていう制限されてる間は、また三人で集まろうって。あ、それよりどうだった？　ハローワーク」

真保「まだこれと言ったものがなくてね。まあ、ゆっくりまた探すわ」

雅也「そっか」

と、雅也のスマホに着信が鳴る。

雅也「（電話に出て）もしもし。お疲れ様です。はい、はい……え、明日ですか？」

2　中央交流センター・打ち合わせコーナー

雅也、佐代子、住吉、美穂子が話している。

雅也「スリジェネを一般社団法人にですか」

佐代子「（一同に）これまでは、一団体としての活動でしたけど、今後のスリジェネの活動のことを考えたら、法人化しようと思ったんです。私が代表理事、それから住吉先生には副代表理事、美穂子さんには総務担当常任理事、うっち―には広報担当常任理事兼事務局長をお願いしようと思ってます。理事は実質役員なので、体裁としてはこれまで通り運営を担うということです」

住吉「副代表なんて、私にできるかどうか分かりませんが」

佐代子「あくまで、定款上の話です。業務内容はこれまで通り、住吉先生には講師陣との連携とレッスン時間割の作成、美穂子さんには会計を中心とした総務的役割、うっ

ちーには宣伝や広報、窓口業務、それから
メンバーとの連絡調整をお願いしたいです」
住吉「分かりました」
美穂子「一般社団法人になったら、また忙し
くなりますね」
佐代子「嬉しい悲鳴が上がれば良いかなと思
ってます。一般社団法人としての年間事業
計画は、今作成しているところです」
雅也「とうとうスリジェネも、法人化になる
んですねぇ」
佐代子「うっちーには、結成当時からずっと
かかわってもらってるもんね。気が付いた
ら、私とうっちーだけになってるね、最初
からずっといるの」
雅也「確かにそうですね」
佐代子「これからも頑張ろう」
雅也「はい」
佐代子「（一同に）それと、成果発表会当日
のことなんですけど、記録用の写真や映像
を撮ってくれる方、誰かいないですかね」

美穂子「記録係か……」
美穂子「やっさん、どうですかね」
雅也「ああ、YouTube始めましたもんね」
住吉「明日のダンスレッスンに来るので、相談しておきます」
佐代子「お願いします」
美穂子「後は写真撮影担当ですよね……」
雅也「うちの父に頼んでみましょうか？」
佐代子「うっちーのお父さん？」
雅也「ええ。うちの父、知り合いの結婚式でも記録係お願いされるぐらいなんです。それに、まだ一度も僕のステージ見たことないんですよ。なので、これを機に見てもらえたらと思って」
佐代子「じゃあ、お願いしてみてくれる？」
雅也「分かりました」

3　木内家・居間（夜）

夕飯を食べている雅也、孝志、真保、健次郎。

孝志「俺が？」
雅也「うん。カメラできるでしょ」
孝志「そりゃ分かるし、日曜は空いてるけど」
雅也「じゃあお願い。（と真保と健次郎に）
二人もせっかくなら来てよ。コロナ襲来後、
初めての舞台で、みんな張り切ってるから」
健次郎「確かに、俺、兄貴の舞台、まだ一回
しか見てない」
真保「私はこの間映画見たけどさ」
雅也「だったら舞台も見に来てよ。みんな家
族とか友達連れてくるって言ってるの。リ
ーダーの俺が誰も連れてこないわけにはい
かないでしょ」
健次郎「（真保に）見に行こうぜ、久しぶり
の兄貴の舞台」
真保「せっかくだし、見に行きますか」

4　ファミレス

雅也が、山中にチケットを渡す。

雅也「はい。成果発表会のチケットです」

山中「ありがとう。（とチケットを見て）へえ、とうとうスリジェネも法人になったか」
雅也「ここまでいろいろありましたけど、これからはメンバー兼理事として頑張ります」
山中「よくやってるよな、うっちーも。仕事しながら、こうして舞台にも立ってさ」
雅也「結成からちょうど三年。あの頃は、舞台の上手も下手も知りませんでした。演劇の基礎は、ヤマさんに教えていただきました。ありがとうございます」
山中「自主練もたくさんやったもんな」
雅也「カウントダウンイベントだったり、演劇祭だったり、特に一年目は大変でしたね」
山中「運営やらメンバーに挟まれてな」
雅也「ヤマさんこそ、ご自分の劇団がある中でこちらの作品も数多く演出して、最後に一緒にやった『神様が願うまで』も、今のスリジェネに繋がるように子どもたちと一緒にできて、良い思い出です」
山中「本当、楽しかったよな」

雅也「はい」
山中「うっちーは脚本家としての顔もあるから、台本の読み込みが早いだろ。だから、演劇としての才能はあると思ってる。実際プロの人間だって、演者をしながら脚本書いてる人だっているからな。うっちーもいずれ、そういう人になれたら良いけど」
雅也「ですね。とにかく、目の前のことに必死で、突っ走ってここまで来ましたけど、まだこれからですから」
山中「楽しみにしてるよ。うっちーがどんなふうに成長したか」
雅也「プレッシャーですねぇ」
笑い合う雅也と山中。

5　中央公民館・全景
N「そして、成果発表会本番の日が来ました」

6　同・ホール
壇上でバミリを張っている住吉、谷岡、

理絵――その様子を一眼カメラで撮影
している孝志。
観客席の後ろでビデオカメラのセッテ
ィングをしている泰明――ジャージ姿
の雅也が通りかかって、
雅也「やっさん」
泰明「やあ、うっちー」
雅也「しばらくでした。今日は映像撮影して
くださるそうで、よろしくお願いします」
泰明「バッチシ、みんなの姿撮っとくからね」
雅也「よろしくお願いします」
泰明「オッケー」

7　同・男性楽屋
譲治、洸、本村、隆太、翔、秀樹が昼
食を食べている。
譲治「（隆太たちに）緊張してる？」
隆太「めっちゃしてます」
翔「何とかなるって」
秀樹「いつも通りに頑張ろう」

本村「コーラス、頑張ってよ。男性陣の歌唱力にかかってるんだから」
秀樹「そう言われると、緊張してきました」
洸「大丈夫だって。ちゃんと、共鳴を意識して、腹から声出すこと」
秀樹「はい」
と、雅也が戻ってくる。
雅也「ぞろぞろとお客さん来始めてますよ。もうすぐ開場ですね」
譲治「あ、うっちー。この後、円陣組むって言ってたよ。掛け声はうっちーだってさ」
雅也「え、誰がそんなこと言ったんですか？」
譲治「国枝さん」
雅也「ええ、何も聞いてない」

8　同・女性楽屋

それぞれ準備をしているまひる、美穂子、千世、亜里沙、香奈枝、琴音、美香、沙耶。
千世「（美穂子に）お母さん、髪縛って」

美穂子「これぐらい自分でやんなさいよ」
千世「上手くできないの」
美穂子「はいはい」
沙耶「うーん、メイクこんな感じで良いかな」
まひる「あ、サヤちゃん。もう少しチーク濃くしようか（と手伝う）」
沙耶「ありがとう」
美香「良いなぁ。まひるちゃん、後で私もやって」
まひる「はいはい」
　と、谷岡が入ってくると、
谷岡「みんな、準備は大丈夫？　特に小道具は混乱しないようにちゃんと整理してね」
一同「はい」
亜里沙「（衣装を着て）谷岡先生、どうですか？」
谷岡「あら、可愛いじゃない」
　と、理絵が入ってくると、
理絵「みんな、ステージに集まって」
一同「はい」

9　同・ホール

雅也、佐代子、住吉、本村、洸、谷岡、譲治、理絵、まひる、美穂子、千世、亜里沙、香奈枝、隆太、翔、琴音、秀樹、美香、沙耶が集まっている――遠目からその様子をそれぞれ撮影している孝志と泰明。

佐代子「ついにこれから本番です。アカデミーが始まって一年、途中緊急事態宣言で休校になるなど、大変な一年でした。でも、こういう時こそエンタメの力を発揮するときです。レッスンで学んだ成果を存分に発揮して、今日来場いただくお客様を楽しませてください」

一同「はいッ」

佐代子「では最後に、恒例の円陣を組みたいと思います。（と雅也に）うっちー、お願いします」

雅也「はい。これから、趣味円陣にしようか

と思ってるうっちーからご説明します。思えば、このメンバーで円陣を組むのは初めてなので、簡単にご説明します。まず全員で肩を組みます。それで、僕が『未来に向かって、僕ら』と言ったら、全員で右足をポンッと出して『スリジェネ！』と言ってください。これが『スリジェネ』の円陣になります。これからやる機会が増えていくと思うので、皆さん覚えておいてください。それでは、まいりまーす！」

と、一同が円陣を組む。

雅也「さあ、今日は思い切り楽しんで、学んできたものを出し尽くしましょう。では行きます。未来に向かって、僕ら」

一同「（足を出して）スリジェネ！」

と、拍手をして、それぞれに「よろしくお願いします」と言う。

10　同・ロビー

チケットをもった来場客の列ができて

いる――チケットもぎりをしている佐代子と理絵。

佐代子「お席自由になっております」

理絵「順番に中へお入りください」

検温器で観客の体温を測っていく住吉。

住吉「はい、おでこ失礼します。はい、平熱ですね、大丈夫です」

11　同・ホール

観客たちが座っている――その中に藍那がいる。と、隣の席に山中がやってくる。

山中「藍那、久しぶり」

藍那「ヤマさん、ご無沙汰してます」

山中「うっちーに誘われた？」

藍那「はい、あとまひるちゃんにも」

山中「よく会ってるのか？」

藍那「ええ。本番終わったら、またゆっくりご飯行こうって約束してるんで」

山中「そっか。俺も、今日はうっちーからチ

ケットもらった」
藍那「二人でコントやるんですって。それが楽しみで」
山中「へえ、あの二人がコントね」
と、真保と健次郎が入ってくる。
健次郎「前の方にしようぜ」
真保「ええ、何かいやらしいじゃん」
健次郎「どうして？　前の方が、はっきり兄貴が見えて良いじゃんか」
真保「じゃあ、この辺にしようか」
と、最前列に座る真保と健次郎。

12　同・男性楽屋
雅也が衣装を着て、メイクをしている
――ホールから歌声が聞こえてくる。

13　同・ホール
コーラスを歌っているまひる、美穂子、千世、亜里沙、翔、香奈枝、秀樹、美香、沙耶――指揮棒を振る洸と、ピア

ノを弾いている本村。

×　×　×

観客席からビデオ撮影をしながら見ている泰明。

×　×　×

ソロ歌唱をしているまひる。

×　×　×

ソロ歌唱をしている美香。

×　×　×

ソロ歌唱をしている亜里沙。

×　×　×

ダンスを披露しているまひる、美穂子、千世、翔、隆太、沙耶――舞台袖から見守るように見ている住吉。

×　×　×

ソロ歌唱をしている千世。

×　×　×

ソロ歌唱をしている沙耶。

×　×　×

ソロ歌唱をしている香奈枝。

×　　×　　×

コントを披露している雅也とまひる。

雅也「（スイカ割りをして）えいッ」

まひる「おお、割れた」

雅也「割れたね」

まひる「じゃあ切ってくるね」

雅也「ちょっと待った！　今何て言った？」

まひる「切ってくるねって」

雅也「（愕然としゃがみ込み）ちょっと待ってよ……」

まひる「え、どうしたの？」

雅也「切ってくる？　じゃあ、棒は何だったの？　切るんだったら、棒の意味なんかないでしょうが！」

と、観客席から笑い声が聞こえる――

真保と健次郎も笑っている。

孝志が写真撮影をしている。

舞台袖で見ている香奈枝と琴音。

香奈枝「ウケてるよ」

琴音「やっぱりあの二人はすごいわ」

×　　×　　×

雅也「よし、じゃあ行くぞ！（と下手に去っていく）」

まひる「ちょっと、それじゃあ全然関係ないじゃん！（と後を追っていく）」

暗転し、ＢＧＭが流れて、観客が拍手をする。

14　同・男性楽屋

雅也がジャージを羽織っている――手伝っている秀樹。

雅也、ポケットから黒縁眼鏡を取り出してかけると、髪をクシャクシャにする。

秀樹「オッケーです！」

雅也「よし、行こう！」

15　同・ホール

座っている亜里沙、香奈枝、翔が不思議そうに辺りを見渡している。美香と

沙耶は苛立つように周りをウロウロしている――観客席を通って衣装替えをした秀樹、雅也、まひるが入ってくる。

秀樹「確か、この辺だよな」

雅也「先輩、どこ連れてくんですか？」

秀樹「良いからついて来いよ」

まひる「ちょっとあんた、行く場所も知らずに私も連れてきたの？」

雅也「だって、人が多い方が良いって先輩が言うから」

秀樹「おい、俺のせいにするのかよ」

×　×　×

観客席で見守るように見ている山中と藍那。

×　×　×

雅也、まひる、亜里沙、香奈枝、隆太、翔、琴音、秀樹、美香、沙耶がそれぞれ談笑するように去っていく――美穂子と千世を従えた隆太がセンターにやってくると、

隆太「さあ、これで皆さん、元の生活に戻れます。やり直すのです、もう一度」

と、会場が暗転になり、ＢＧＭが流れ、観客席から拍手が聞こえる。

音楽がフェードアウトすると、再び会場が明転し、テーマソングのインストゥルメンタルが流れる――観客たちが手拍子をする。

音楽のタイミングに合わせて上手から、秀樹と沙耶が出てくると、舞台センターでポーズを取り、両側にはける。以降、美香と琴音、亜里沙と香奈枝、美穂子と千世、隆太と翔の組み合わせも同様に。

そして、雅也とまひるが出てくると、舞台センターで三方礼をする。

やがて、全員でダンスを踊る――曲が終わり、全員が舞台中央に集まって決めポーズ。

観客たちが拍手をする。

雅也「本日は、ありがとうございました！」

一同「ありがとうございました！」

キャスト一同、深々と一礼する。

観客たちがもう一度大きく拍手をする

――真保、健次郎、山中、藍那、そして泰明。

拍手をしながらも撮影を続ける孝志。

舞台袖で拍手をしている佐代子、住吉、谷岡、譲治、理絵、洸、本村。

頭を上げるキャスト一同、観客席に向かっていつまでも手を振り続けている。

N「この十年を振り返ると、僕にも周囲の人々にも様々な変化がありました。未だコロナが落ち着かない情勢が続きますが、これからも何事にも突っ走っていく気持ちだけはいつまでも変わらないことだと、観客の拍手の渦が響き渡る中で僕は思っていたのでした」

おわり